

千歳市教育委員会だより

からふる



平成26年2月 冬号
発行：千歳市教育委員会

「からふる」は、千歳市の特色ある教育や学校の取組を広く紹介するために、年4回発行する季刊紙です。子どもたちや学校にはそれぞれの特徴があります。その個性がさらに色鮮やかに輝いてほしいという願いを込めて「からふる」と名づけました。

ICTを活用した教育を進めます

千歳市では、未来を担う子どもたちが、ICTの活用により、情報活用能力を身に付けていくことや、分かりやすく理解や思考を深める授業により確かな学力を身に付けていくことを目指し、市内小中学校に電子黒板などのICT機器を整備していきます。

ICTとは、「Information and Communication Technology」の略で、コンピューターやインターネット等の情報通信技術のことをいいます。

ICTを活用することで授業の双方向性を高め、**児童生徒の主体性や関心・意欲、理解を高める効果がある**という特徴があり、特に、ICTを活用した授業は活用しない授業と比較して、学力が向上することが国内外で実証されています。

平成25年度からの3カ年で、市内小中学校の全普通教室に『電子黒板』・『実物投影機』・『ブルーレイレコーダー』を整備します。



(電子黒板の配置計画)

平成25年度	平成26年度	平成27年度
12校 152台	8校 75台	5校 59台

電子黒板と実物投影機の具体的な活用方法

実物投影機で教科書の写真や図表、ノートなどの教材を拡大して**電子黒板**に映し、映し出した画面に電子ペンで書き込むなど、視覚に訴えることにより、説明がわかりやすくなり、児童生徒の関心や集中力を高めることができます。

実物投影機



実物表示



電子黒板

- ・電子黒板機能内蔵プロジェクター
- ・82型ボードスタンド
- ・高さ調節や教室移動が容易
- ・2人同時書き込みが可能

- ・教科書やノートの実物を拡大して画面に表示
 - ・パソコン内の動画や画像のデータを画面に表示
 - ・電子ペンで画面に直接書き込みができる
 - ・簡単に色や線の太さを変えたり、図形や記号を表示
- 電子黒板は、授業の様々な場面で活用することができます。

教員の指導力向上に向けて

電子黒板などのICT機器は、従来の黒板に取って代わるものではなく、黒板とICT、両方の良さを活かして組み合わせることで、より効果を上げることが期待できるものです。

ICTを有効に活用するためには、教員の指導力の向上を高めることが重要ですので、様々な研修や実践を通して活用指導力の育成と向上を図ります。



(教員研修の様子)

千歳市ホームページに「からふる」のバックナンバーを掲載しています。
URL : <http://www.city.chitose.hokkaido.jp/>

千歳市 からふる

検索



平成26年度主な教育施策（案）の概要

平成26年度の教育予算（案）は、総額3,389百万円で内訳は下記グラフのとおりです。

『学びの意欲と豊かな心を育む教育文化のまち』をめざした取組を一層推進します。



学校生活意欲等の満足度調査を実施します

児童生徒の学力向上といじめや不登校の未然防止などの指導を充実するため、児童生徒に対する学校生活意欲や学級満足度などについてのアンケート方式検査「ハイパーQ U検査」を実施します。

- ・小学校 3～6学年 ・中学校 1～2学年



4校に1名の学校図書館司書を配置します

図書の分類整理、購入・廃棄、環境整備など、学校図書館の運営支援を行う司書を増員し、学校図書館の環境を充実します。

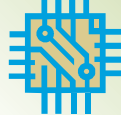
- ・学校図書館司書 2名から6名に増員



ICT機器を活用した教育を推進します

平成27年度までに小中学校の全普通学級に電子黒板、実物投影機、ブルーレイレコーダーを整備します。

- ・26年度 小学校6校、中学校2校
- ・北陽小学校にタブレット端末（42台）と無線LAN環境を整備



特別支援教育支援員を増員します

通常学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症などの障がいを持った児童生徒に対する支援を充実するため、特別支援教育支援員を増員します。

- ・小学校13校 29名から30名に増員
- ・中学校6校 8名から10名に増員

小学校に学習支援員を配置します

習熟度別学習など児童一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を充実するため、新たに学習支援員を小学校に配置し、基礎学力の向上を図ります。

- ・学習支援員 小学校全体で10名配置
- ・指導時間 週20時間



スクールカウンセラーによる相談を充実します

児童生徒、保護者、教員にカウンセリングなどを行うスクールカウンセラー配置校を1校増加し、児童生徒による問題行動などの早期解消に努めます。

- ・小学校 8校から9校へ増加
- ・中学校 8校
- ・市教委青少年課による月2回の教育相談

外国語教育を充実します

小学校では、ALT（外国人英語指導助手）が作成するリスニング教材を活用し、外国語活動を充実します。中学校では、新たにALTによる長期休業中の補充学習を実施し、生徒の外国語活用能力の向上を図ります。

- ・小学校 リスニング教材の作成と活用
- ・中学校 長期休業中の補充学習

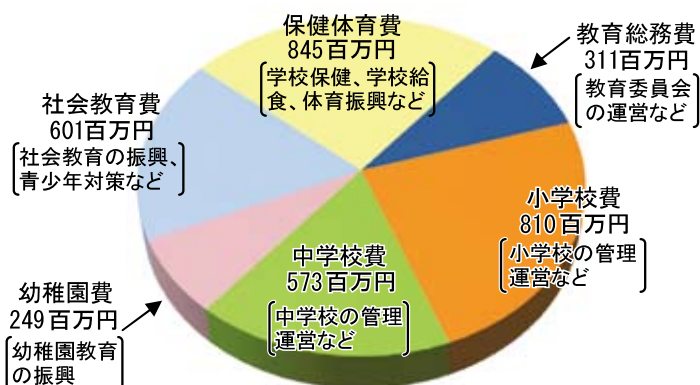


屋内運動場の耐震化を進めます

子どもたちの安全な教育環境を確保するため、小中学校の屋内運動場の非構造部材（天井材、内・外装材、照明器具など）の落下防止対策を行います。

- ・26年度 設計（千歳小、日の出小、信濃小、高台小、千歳中、青葉中、向陽台中）
- ・27年度 工事

平成26年度の教育予算（案）の内訳



【歳出合計：3,389百万円】

校内放送設備のデジタル化を進めます

老朽化している小中学校の放送設備を計画的に更新します。

- ・校内放送のデジタル化
- ・26年度 小学校4校、中学校2校



キウス周堤墓群の調査とPRを実施します

国史跡キウス周堤墓群を資産に含む「縄文遺跡群」の平成28年度の世界文化遺産登録に向けた取り組みを推進します。

- ・遊歩道、説明板、PR用懸垂幕の製作
- ・試掘調査



学校の特色ある取組を紹介します!



北栄小学校

「三大検定」

～学力・体力向上をめざして～



北栄小学校では、朝の学級活動の10分を活用し、学力（基礎力）向上を目指した「漢字検定」・「計算検定」と、体力向上を目指した「なわとび検定」による『三大検定』に取り組んでいます。

漢字検定は、全学年共通の51枚のプリントがあり、計算検定は、「たし算・ひき算・かけ算・わり算」の4種類各10枚のプリントで検定しています。

なわとび検定は、7月と12月に検定会を、8月と1月になわとび交流会を実施しています。

この検定会により、児童の自習性が身につく、苦手克服につながり、計算大好き児童が増加中!!です。



なわとび検定



泉沢小学校

「泉・ザ・ワールド」

～おもてなしの心で地域とともに～



開校以来17年間、泉沢小学校で継続して実施している取組の一つに『泉・ザ・ワールド』があります。

毎年、2年生以上の学級が、習字体験、占いの部屋、お化け屋敷など様々な出店を計画し、自主性と創造性を磨く手作りの学校のお祭りです。

学校だけでなく、お世話になっている地域の方々にもポスター等でお知らせし、保護者・町内会・保育所・幼稚園・向陽台小学校（あおぞら学級）など、年代を超えた方々とのふれあいを深めることで、豊かな心を育てています。



1年生のオープニングセレモニー



勇舞中学校

「新たな知を拓く」

～ICT機器を活用した授業の実践～



勇舞中学校は、「豊かな心に根ざした確かな学力」を重点目標とし、生徒の自発的な行動を重んじた指導の取組として、平成24年度の開校時から『朝読書』や『ノーチャイム・ノー放送』に取り組んでいます。

また、ICTを活用した授業実践を先進的に推進しています。電子黒板・デジタル教科書・実物投影機はもとより、千歳科学技術大学の協力のもと、共同開発したコンテンツや授業支援、タブレット端末やデジタルペンなどを組み合わせた授業や特別活動は、生徒の表現力や思考力を高めています。



タブレット端末を使用（修学旅行：清水寺）

SNSやゲームの交流サイトにおける児童被害が増えています!

警察庁が行った調査結果では、平成25年度上半期において、出会い系サイトなどが原因で犯罪被害に遭った児童は、全国で598人と前年同期比で17.5%の増加でした。また、交流サイトの利用について「親から注意を受けたことがない」が55.4%に上り、被害児童の95%がフィルタリングに未加入でした。

SNSやゲームなどは、だれとでも交流できる便利な機能がありますが、自己紹介や日記の公開、学校名や住所、個人名などの個人情報が見える記述などは、トラブルにつながる可能性があります。保護者が子どものサイトの利用状況を把握して、利用時間や投稿内容までを含めて、定期的にチェックすることが必要です。



冬休み中に学習サポート事業を実施しました！

教育委員会では、小中学校の長期休業期間を利用し、大学生ボランティアが教員の児童生徒への指導を補助する『学習サポート事業』を行っています。

今回は、希望があった小学校12校、中学校4校に対し、千歳科学技術大学の学生49名が参加し、子どもたちからは、「やさしく教えてもらえわかりやすかった」などの感想が寄せられました。

・実施校 千歳小、北栄小、末広小、緑小、第二小、日の出小、信濃小、高台小、祝梅小、桜木小、向陽台小、泉沢小、千歳中、青葉中、北斗中、勇舞中



指宿市から小学生16人が千歳にきました！

12月に姉妹都市の鹿児島県指宿市から小学生16名が青少年相互交流事業として千歳市を訪れました。

指宿の児童たちは生まれて初めて体験する雪に感動し、ホームステイ先のご家族と北海道を観光したり、千歳市の子どもたちと一緒にスキー体験をして交流を深めました。



千歳市役所エコアクション賞受賞!!

北栄小、千歳第二小、信濃小が『平成25年度千歳市役所エコアクション賞』を受賞しました。

受賞した3校は教職員・児童会・全校児童が一丸となり、不要な電灯・電気製品の電源OFFや、リサイクル活動への積極的な取組が評価され今回の受賞となりました。

受賞校以外の学校でもエコアクションへの取組は進んでおり、環境に対する児童生徒の意識が高まっています。



サイエンス会議を開催しました!!

『サイエンス会議』は、千歳科学技術大学の円形教室を会場に、①自然科学 ②環境 ③福祉活動 ④職業体験 ⑤地域との連携などの中から、総合的な学習の時間で取り組んだ成果を発表し、学習に対する自信と意欲を身に付けさせ、併せてプレゼンテーション能力の向上を目的とした会議です。

今年度は、2月22日に小中学校19校により開催しました。

来年は、全学校の参加を目指します。



学校支援地域本部事業で「スケート授業支援」を行いました!

学校支援地域本部事業とは、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを行い、地域の方々に学校の支援ニーズに応じてボランティア活動をしていただく事業です。

スケート授業支援では、6名のボランティアの方々が、千歳小、緑小、信濃小、祝梅小の4校で、スケートの靴ひも結びを補助したり、滑るお手本を示すなどの活動を行いました。



学校を支える人たち

心の教室相談員

千歳市では、13校の小学校に、『心の教室相談員』を配置しています。

各相談員は、児童の悩み・不安の解決をサポートしたり、対話やゲームなどを通して、あいさつの大切さや児童間のコミュニケーションの取り方などを指導しながら、児童の「心」を育て、いじめなどの不安のない、楽しく、安心できる学校づくりのため、教職員と連携しながら活動しています。

・相談時間 概ね週2回（各5時間） ※学校により異なります。



編集・発行 千歳市教育委員会（教育委員会庁舎2階 教育部 企画総務課）

■住所：〒066-8686 千歳市東雲町2丁目34番地 ■電話：24-0819（直通） ■FAX：27-3743

■e-mail：kyoikukaku@city.chitose.hokkaido.jp ■URL：http://www.city.chitose.hokkaido.jp/